

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

幼・小学1年参考手本

るほ
た

小二
山本ゆみ

北村白琉先生

す

小一
たむらきみ

田村鄭雲先生

わう
き

小二
山本けい

倉林紅瑠先生

あ
さ

小一
おがたたかし

尾形澄神先生

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本



加藤眺溪先生

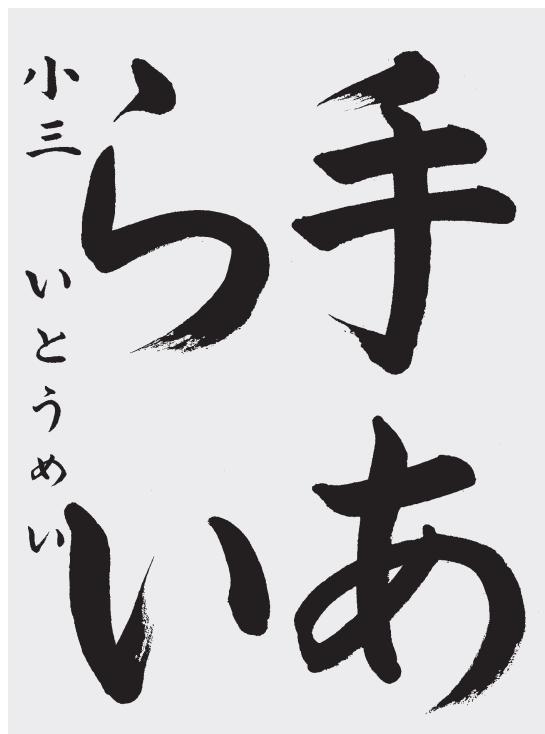
小学3年参考手本



半田藤扇先生



前田龍雲先生



大町青蓮先生

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

小六

神山久代

夏至

小竹石雲先生

小学5年参考手本

小五
串田樹音

開会

田守光昭先生

小六

山田友二

ダソノ
水

大平邑峰先生

形自由

小五
水永英芳

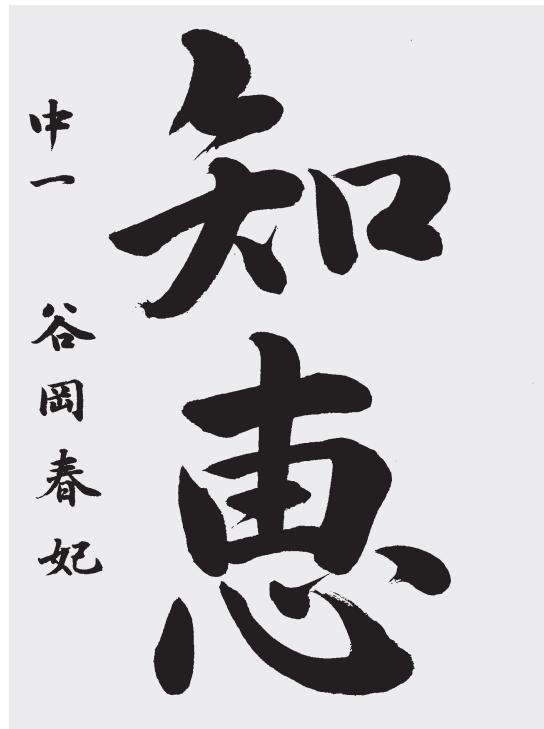
種谷萬城先生

〔7月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

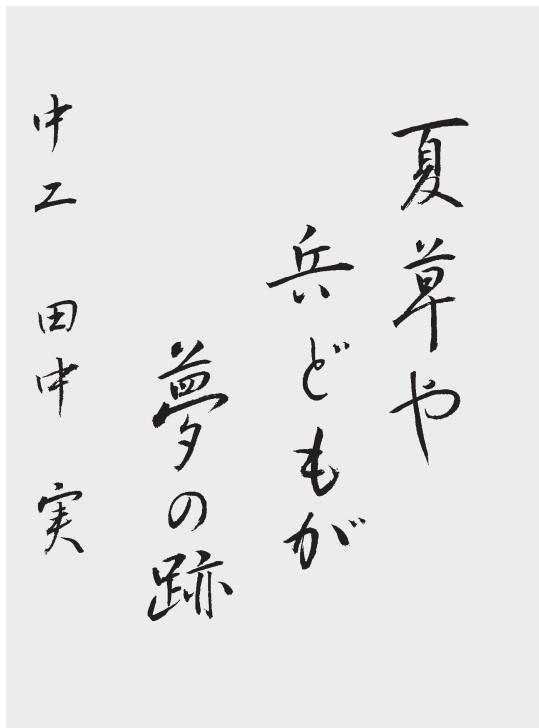
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



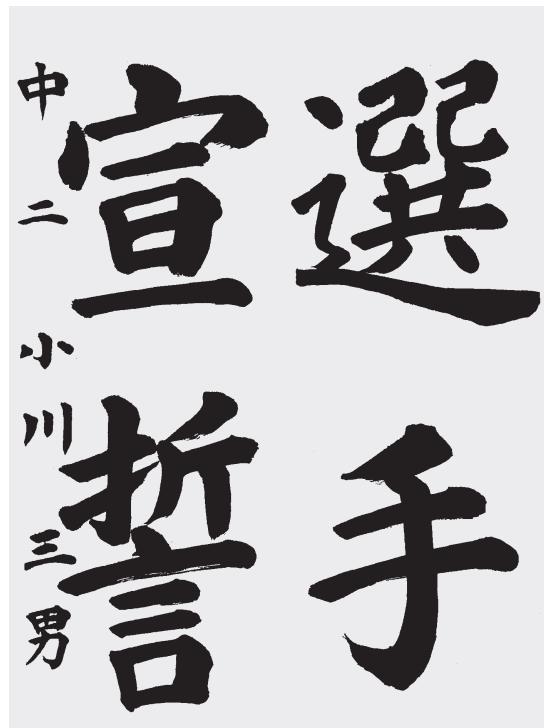
最首翠風先生



名越蒼竹先生



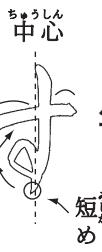
広瀬舟雲先生



辻元大雲先生

毛筆参考手本解説(1)

1年



「ひつじゅん」

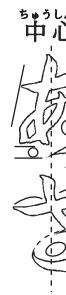
一
す

短め

「ひつじゅん」

才
すすすす

①力をぬきながら
左上へおし上がる。
②軽く止めて、
③軽く止めて、
方向を
かきくり方向を
変える。



「じげん」

安
ああああ
左
左左左左

2年



「じげん」

保
保保保ほ
太
太太太太

留
留留留る

「じげん」

良
良良らら

以
以以い

「じげん」

字
字字字う

幾
幾幾き

和
和和わ

3年



半紙4字書きは左がわの空いて
いる所へ、学年・氏名を入れる。

「じげん」

奈
奈奈奈な

波
波波波は



「ひつじゅん」

一二三手

4年



最大幅に

とめる

方向

「筆順」

一一二千垂垂雲雲



許容



短長

「筆順」

一二二天

5年



等間かく

とめる

「筆順」

一「門門門門開

「筆順」

ノ入々々會會

「筆順」

はらう

印
はなす

形
はなす

止
止め

止
止め

「字形」

ノ入々々會會

「字形」

止
止め

「筆順」

形
止める

「字形」

止
止め

「字形」

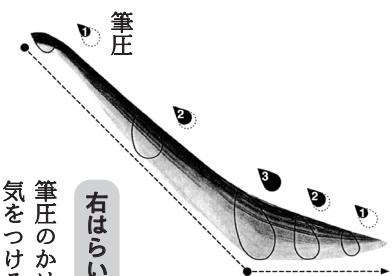
止
止め

「筆順」

一二二开开形形

右はらい

左はらい



筆圧
かけ方に
気をつける。

右はらい



は先をそろえるように、
ゆっくりはらい

左はらい

毛筆参考手本解説(2)

6年

中学

払いの位置

夏
等間かく

直
たて線が
出る

選
払いの位置

許容
已の止め

陽
点画の省略
日月

(356)

書写教育
全国大学書写書道教育学会編より転載



- 行の整え方 (配列)
 - 行の中心に文字の中心をそろえる。
 - 画数の少ない漢字や仮名は、やや小さめに書く。
 - 字間・行間を、それぞれそろえる。
 - 上下・左右の余白を適度に取る。
 - 行頭の高さを工夫して書くと、よりよい表現ができる。(行頭をそろえててもよい)

ひらがなの字源

* 源字については、異字体から変遷したものに*印をして()にその字体を記した。

* 字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

の	か	も	と	や
乃	加	か	毛	也
乃	か	か	も	や
の	か	か	も	や

[7月7日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小 学 2 年

幼・小 学 1 年

支部名	中	朝
段・級	で	の
学年	お	つ
名前	よ	め
林	ぎ	た
星	ま	い
七	し	水
	ま	の
	し	。

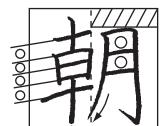
支部名	を	一
だん・きゅう	や	こ
がくねん	り	と
一	ま	り
なまえ	み	に
	うらひな	え
	し	え
	た	や
	。	。



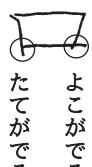
左
は
ら
い



右
は
ら
い



『朝』の字形を、ととのえて書きましょう。
「月」の位置
はらう
とめる
とめ
大きくまがる(「むすび」)



よこができる
たてができる

刀
たてかくにつけない



中心
大きくまがる(「むすび」)
とめ
とめ
とめて、おりかえす
きもちで小さくはねる。

『ことり』
ていねいに、「とめ」「はね」「はらい」を
かきましょう。

[7月7日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年

小学5年

支部名	も 短 い 詩 形 の 文 学 で す。	の 詩 て あ る。	俳 句 は ・ わ が 世 界 で 最 特
段・級			
学年	六		
名前	佐藤 天真		

支部名	よく つく 効 果 が あ る。	され た 標 識 は ・ 人 目 に	黄 色 と 黒 で デ ザ イ ン
段・級			
学年	五		
名前	田辺 千桜		



「俳句」
「へん」と「つくり」をつりあいよく書き
ましょう。

とめる
はらう
ノナヨリ非非非

〈「へん」(けものへん)の筆順〉

立てぎみに

二画目大きくなる
〔「日」を扁平に
筆順に注意〕



漢字とかなをつりあいよく書きましょう。

効
とめ
のびやかに

試
とめ
のびやかに

標
とめ
はらう

少しそり
のびやかにはらう

ごんべんの字形に注意

〔「日」を扁平に
筆順に注意〕

[7月7日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生(行書)

中学生(楷書)

*書写用具は、えんぴつ、フェルトペン、ボールペン。筆ペンは不可。

支部名	
段・級	
学年	
中二	
名前	
永松 海里	温故知新とは、古いことを研究することにより新しい知識や道理を発見することである。

(行)

発見

タバタ

次につながる気持ち

(楷) 発見

タバタ
タバタ

簡単な行書

タバタ
タバタ

支部名	
段・級	
学年	
中二	
名前	
永松 海里	道理を発見することである。

中心

究

一

十

古

古



筆順

一

十

古

古

『温故知新』
漢字を少し大きめに書きましょう。

道理を発見すること



これからのお作品締切日と課題

令和3年8月号～4年1月号までの作品締切日と毛筆課題

小 5	
と	て
活	い
動	ム
を	サ
始	サ
め	ビ
る	は
。く	昼
な	間
は	は
る	ね

幼・小1	
を	あ
か	つ
き	く
ま	て
し	あ
た	せ

小 2	
地	た
図	か
を	ら
交	さ
か	が
ん	し
し	の
た	絵

小 3	
庭	す
の	み
行	で
列	、
を	あ
見	り
か	け
け	た
た	。

小 4	
虫	て
て	が
が	や
や	る
る	つ
つ	と
と	煙
煙	、
、	で
で	作
作	く
く	い
い	ろ
ろ	ろ
ろ	い
い	る
る	な
な	て

小 6	
築	世
の	界
正	東
倉	大
院	寺
が	的
あ	に
る	有
。く	名
な	林
ある	の
木	お
お	く
く	建
建	に

中学生	
す	べ
べ	て
て	の
の	哺
哺	乳
乳	類
類	は
は	毛
毛	づ
づ	く
く	ろ
ろ	い
い	ます。
ま	す。
す	人
人	間
間	も
も	顔
顔	を
を	洗
洗	い
い	く
く	し
し	ます。
ま	す。
す	使
使	つ
つ	て
て	髪
髪	の
の	毛
毛	を
を	とか
か	し
し	ます。

8月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

中学生 (全学年共通)	小 6	小 5	小 4	小 3	小 2	幼・小1	締切日
希望 生きる	ガラス玉	登場	月夜	工作	ゆかた	め	8月6日 8月
神秘 ぐれみし	達成	右はらい	花火	かき氷	さなぎ	せみ	9月6日 9月
虫鳴く夜	交流	防災	満月	秋風	星	えいが	10月5日 10月
えみしな	不言実行	敬老の日	ポスター	大海	王さま	みのり	11月8日 11月
の秋晴れ	趣味	調査	主人公	区間	十月	川	12月6日 12月
かふまじば	宇宙開発	演奏会	金魚	研究	白玉	ぶどう	1月10日 1月
実努力は	能筆	晚秋	大使館	成長	光	メロン	
がもりもみじ	公平無私	貿易港	豊作	ワクチン	文化	きずな	
の調和と	電波	雪国	子守歌	注文	冬山	そば	
もり	理想実現	武道館	師走	絵本	花たば	テレビ	
強い決意	改善	千鳥	賀正	お年玉	学ぶ	てまり	
ゆぽたん	温故知新	富士山頂	計画案	新年	元日	カルタ	

書きを知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、書道芸術院展常任総務です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第52回 封筒の書き方4（様・殿2）

（様・殿2）

敬意を表す語としての「様」の用い方を歴史的にみていくと、室町時代から用いられ、「殿」よりも丁重な表現であったと記されています。

（小学館『日本国語大辞典・第二版・巻6』（2001）による）。

これ以前のはるか昔、「殿」が一般的であった時代があったようですが、敬意がしだいに低下し、「殿」に代わって「様」が使われるようになつていったといいます。室町時代になると「様」が最も高い敬意を表し、「公」につづく三番目に「殿」が位置していたといいます。つまり、この時代においては「様→公→殿」の順だったということです。

江戸時代になると、「様」の使用が増加して、様から転じた「さん」も多用されるようになつたといいます。現代でも話し言葉では「佐藤さん・田中さん」のように用いられます。

日本史研究が専門の友人から面白い話をお聞きしました。「一人称（現代では『わたし・僕』など）は、昔は相手を立てるために『余・拙者』などと自分のことをかなり卑下して述べていました。余は、あまりの意、拙者は、つたない者という意味です。しかし、一人称（現代では『あなた』など）では、昔は『貴様・貴殿』と高い敬意を表す漢字二字を用いていました。『貴様』は、上方で尊敬代名詞として生まれ、東漸（勢力が東の方へ次第に伝わり広まること）してもなお軽い敬意を含んで用いられたといいます。

ところが、ある研究によると、江戸時代の文政の頃から相手を罵る例も出始めたとの事で、現在では、罵る言葉に完全に変身している。」といふことです。「貴殿」は、武士が主として同輩に向かって用いる武士詞でしたが、今ではテレビの時代劇の中でしか聞くことが出来なくなつた語といえます。よつて、今、私たちが、貴殿という語を使うと、時代にそぐわない変な人と見られます。このようにかつて敬意を示していたものが、時代とともに格が下がつてしまつているものもあることが判りました。

前号で述べた「上様」という語も調べると、元は天皇や皇族・将軍といったとても高貴な方を表す尊敬代名詞でした。ところが、現在の慣習では領収書を書くときに相手を特定しない場合、一般庶民に対しても「上様」と記します。この事からみて、よく言うと対象者がかなり広がつた、言い換えると江戸時代と比べ、かなり下がつたといえましょう。

○ 様
× 様

今月のホープ

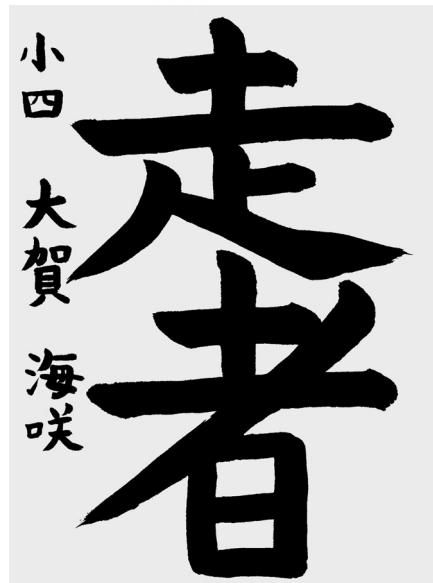


しっかりと安定した筆運びで、力強い書きぶりが見事です。名前も落ち着いてていねいさが感じられます。

支部名	
段・級	
学年	
中三	
氏名	
石原鞠花	

「国破れて山河在り、城春にして草木深し」は、中国の有名な漢詩「春望」の一節。

小六 山下萌々子（光峰支部）



しっかりと安定した運筆で、美しい字形です。伸び伸びした線質で見事にまとまっている立派な作品です。

中三 石原鞠花（小島支部）

支部名	
幸扇	
段・級	
学年	
中三	
氏名	
西本明道	

大きな花をさかせた。

小四 大賀海咲（泰香社支部）

小三 西本明道（幸扇支部）

漢字・かなのはばらんすも良く、名前とも一貫しています。自然の情景が見えるような美しい作品に仕上りました。

一字一字が丁ねいにしっかりと書かれています。ハネから次の線に気持ちをつなげているのもすばらしく見事です。

8月号毛筆参考手本（予告）8月6日締め切り分

8月号
毛筆参考手本

幼・1年

3年

5年

中学

小一
ささきかな

工作

小五
後谷直輝

登場

中二
加山太郎

神秘

め

小三
山下洋子

せみ

小五
長田圭一

らいは

中三
長井希

天體測観

小一
かんのさなえ

ゆか

小五
吉田美里

かき

中二
伊藤光一

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
三田洋子

かき

中二
田中花

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
白石洋

かき

中二
山田ゆり

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
黒川五代

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

たゆか

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

小一
ささきかな

せみ

小五
小林

かき

中二
小林

神秘

</div